

姫路市立図書館だより

城影

2023年10月号



発行 姫路市立城内図書館

兵庫県姫路市本町68-258

電話 079-289-4884

姫路城クイズ

姫路城世界遺産登録30周年を記念して、図書館全館で「姫路城クイズ」を実施し、クイズの参加者に家紋クリアファイルをプレゼントします。(先着500名)

回答受付期間：11月1日(水曜日)から12月27日(水曜日)まで

姫路城クイズの問題用紙に答えを記入し、図書館窓口まで提出してください。

ぜひ参加
してね♪



まちの保健室 in 城内図書館

病院に行くほどでもないけれど、ちょっと気になる健康上の不安。

「まちの保健室」で看護師さんに相談してみませんか？

内容：健康相談・ものわずれ相談 その他 血圧測定・体脂肪測定・血管年齢測定

日時：10月11日(水曜日)、12月13日(水曜日)、2024年2月14日(水曜日) 午後2時から4時まで

場所：城内図書館1階 おはなしのへや ※申込不要

主催：公益社団法人兵庫県看護協会西播支部「まちの保健室」



臨時休館のお知らせ ご迷惑をおかけしますがご理解ご協力をお願いいたします。

夢前分館：10月8日(日曜日) 10時から13時まで：電気点検による停電のため

白浜分館：10月14日(土曜日)・15日(日曜日)：松原神社秋の祭礼のため

やすとみ分館：10月17日(火曜日)から22日(日曜日)まで：空調改修工事のため

やすとみ分館：10月28日(土曜日)：あじさい祭りのため

募集中

子どものための音読講座

10月29日(日曜日)開催！ 詳しくはホームページまたは城内図書館まで



10月・11月 図書館カレンダー (■が休館日)



10月 October 神無月						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

分館						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月 November 霜月						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

分館						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

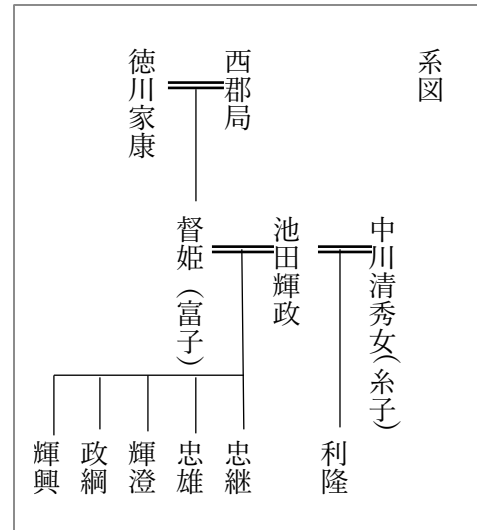
※ひがし分館は令和6年3月末(予定)まで休館

徳川家康の次女・督姫と姫路

姫路城主池田輝政の継室（正室と死別・離別した後の正式な後妻）は、徳川家康の次女の督姫でした。その督姫について取り上げます。

【生涯】

督姫は、永禄8年（1565）徳川家康の次女として生まれました。天正11年19才のときに小田原の北条氏直と結婚。天正18年の豊臣秀吉の小田原攻めによって北条氏が滅ぶと、生家に戻りますが、文禄3年（1594）、30才のときに三河吉田城主だった池田輝政と再婚しました。関ヶ原合戦を前に大坂城に人質としてとられるなど辛酸をなめますが、輝政に従って姫路に来てからは、播磨御前といわれ、輝政との間に五男二女をもうけました。輝政の没後は良正院と号して、江戸で池田家の相続問題に取り組み、元和元年（1615）京都二条城で亡くなりました。（『姫路城史 上』『姫路城100ものがたり』他より）



【毒まんじゅう事件】

史実ではありませんが、督姫と忠継の死について、江戸時代に流布していたこんな逸話があります。

督姫は輝政の莫大な遺領を利隆が相続するのをねたみ、饗応の席で利隆に毒まんじゅうを出した。忠継がこれを知ってその毒まんじゅうを食べ、兄の身代わりになって亡くなった。督姫は驚いて自らもその毒まんじゅうを食べて亡くなったというのです。

『播磨城主たちの事件簿』（播磨学研究所/編 神戸新聞総合出版センター）には、「毒の使い手として噂された徳川家康との血縁的な関係、利隆流と忠継流の微妙な関係が相まってこの説話は成立しているのだと考えられます。」と書かれています。

他に督姫と毒まんじゅう事件について書かれているものとしては、『池田家三代の遺産』（播磨学研究所/編 神戸新聞総合出版センター）があります。

【どんな人物だったのか・・・？】

火坂雅志の小説『壮心の夢』に収められている短編「おさかべ姫」は、姫路城の怪異に悩まされる池田輝政の話ですが、その中に登場する督姫は、気位が高く夫を夫とも思わぬようなところがある女性として描かれています。督姫が実際にどのような人物であったかは不明ですが、上記『池田家三代の遺産』によると、督姫は池田家全体のことを考え、池田家の相続問題にも大きな役割を果たしたのだそうです。己の役割を果たすために尽力した人物であったのではないかと思われまます。

（村上）

図書案内

『図説近世城郭の作事 天守編』

三浦 正幸/著 原書房 (521-ミ)

「お城」という語句から一般に連想されるのは、「天守」ではないでしょうか？ 城の代名詞ともいえる天守が江戸時代、どのように使用されていたかは実はあまり知られておらず、城主（お殿様）は天守の中に住んでいて、毎日最上階から城下の様子を眺めていた、というような誤ったイメージを持たれている方もあるかも知れません。尾張藩の記録によると、金の鯨鉾で有名な名古屋城天守は常に空き家で、月に二度の掃除と警備のための巡回が行われていただけだったことがわかります。また、広島藩の公式記録『事跡諸鑑』には、元文2年（1737年）7月23日条に、藩主浅野吉長が天守に登りたいと言い出したことが記されています。藩主が天守に登るとなれば、掃除や畳替え、室内の設え、随行員の招集などで大騒ぎになるので、各地の城でも藩主の気まぐれな登閣はほとんどなかったようです。

本書では、大河ドラマの建築考証も担当されている著者により天守を構成する各パーツの機能、役割等について、図版、カラー写真を交えて興味深く紹介されています。

(小阪)

今月の子どもの本

『の』

junaida/著 福音館書店 (E-ジ)

「の」は不思議な言葉です。いつもことばとことばのすきまにこっそりいます。「の」はバトンのようなことばで、物、時間、感情を繋げていきます。

絵本を開いてみると、

「わたしのお気に入りのコートのポケットの中のお城の…」

ポケットの中にあるお城には王さまが住んでいて、王さまのベッドのシーツは突然、大海原になり、その海をこえて船乗りたちはふるさとの島へ帰り、灯台の上にあるサーカス小屋には人気者のピエロが登場、場面は目まぐるしく変化し続けます。森の図書館や赤鬼の兄弟や音楽家のレッサーパンダ、などなど。どんどんと「の」が連なっていく、絵や物語が思いもかけなかった世界を生み出し、動き出し、躍動していきます。

不思議な「の」に導かれ、時間も空間も超えた終わらない「旅」に親子で出かけてみませんか。

小学校低学年から。

(坂根)